

科目名	オーケストラ I～IV [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	後藤 龍伸	単位	1	年次	1,2

●授業科目の目標

授業を通して演奏技術を高め、同時に他人の音を聴きながら合奏することの大切さを学び、音楽の楽しさや作曲家の描いた緻密な世界を表現する面白さを、共有できるようにつとめる。学習内容な、卒業後プロの演奏家や指導者としても活動できるようになるための、社会参加や音楽現場に即したものを旨す。

●履修上の条件及び履修の方法

アンサンブル能力を高めよう、という自覚をもってのぞんでください。できるだけ遅刻・欠席の無いよう、こころがけること。課題曲はかならず予習すること。

●試験方法及び成績評価方法

適切に学習していると判断できる場合はA評価、そうでない場合はB評価、いちじるしく授業を妨害した場合はC・D評価もあり得る。

●テキスト（必携）

●授業内容

- (春・秋)
- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
 - 2回 それぞれの楽器の特性（音域など）に関する知識を深める。調律（ピッチ）について研究する。
 - 3回 楽譜の読み方をきわめる（スコアリーディングを含む）。書き込みの仕方を習得する。
 - 4回 フレージング（旋律の歌い方、起伏の作り方）を研究する。
 - 5回 正しいリズムを習得する。
 - 6回 作品にふさわしいテンポを設定する。
 - 7回 調性およびハーモニー（和声）を研究する。音程を作る。
 - 8回 フレージングとハーモニーの組み合わせによる、旋律の流れとカデンツを感じ取る。
 - 9回 作品の形式（ソナタ形式など）を把握する。
 - 10回 作曲者についての知識をふやす。
 - 11回 作品の成立について研究する。
 - 12回 作品が生まれた時の時代背景をさぐる。
 - 13回 作品の他の分野との関連性（文学・美術など）について探究する。
 - 14回 演奏中に生じる困難なパッセージを克服する。
 - 15回 全体の流れをつかむ。

科目名	オペラ演習 I～IV [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	たかべ しげこ	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

オペラ作品を演じるための歌唱法・演技法を追及し、作品に対する理解を深める。加えて舞台人としての姿勢を身につける。そして本番までのプロセスを経験することで、総合芸術としてのオペラをあらゆる角度から理解する。

●履修上の条件及び履修の方法

予習、復習を確実なものとする。特に立ち稽古開始時の暗譜を守る。音出し開始等の稽古時間を確実に守ること。

●試験方法及び成績評価方法

授業時の研究態度、オペラ公演の研究発表による。

●テキスト（必携）

●授業内容

- (春学期)
- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
 - 2回 作品研究、セリフ稽古、音楽稽古
 - 3回 作品研究、セリフ稽古、音楽稽古
 - 4回 オーディションによる役柄決定
 - 5回 音楽稽古、セリフ稽古、作品研究
- ↓
- 12回
 - 13回 立ち稽古（暗譜）
- ↓
- 14回 立ち稽古
 - 15回 立ち稽古
- (秋学期)
- 1回 立ち稽古
 - 2回 立ち稽古（小返し、振り付けを含む）
- ↓
- 7回
 - 8回 幕毎の通し稽古
 - 9回 幕毎の通し稽古
 - 10回 幕毎の通し稽古
 - 11回 通し稽古（Aチーム）
 - 12回 通し稽古（Bチーム）
 - 13回 劇場にて、セット照明セッティング、場あたり
 - 14回 劇場にてゲネプロ（A）
 - 15回 劇場にてゲネプロ（B）
 - 16回 劇場にて本番（A）
 - 17回 劇場にて本番（B）

科目名	オルガン奏法研究Ⅰ～Ⅳ [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	住山 玖爾子	単位	1	年次	1,2

●授業科目の目標

音楽を深く勉強するには、専門分野以外の研究も大きな力になると思います。
西洋音楽の中で古い歴史を持つオルガン（ヨーロッパ諸国で“オルガン”は、パイプオルガンの意。）の基礎的な奏法を身につけその歴史を学ぶ。

●履修上の条件及び履修の方法

授業は休まない様に。授業の中で人の演奏を聞いたり、又自分で弾いてみたり・・・などお互いの理解度が確認出来る環境で進めたいと考えています。

●試験方法及び成績評価方法

出席状況、課題の理解度など、これらを総合的に評価を行う。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 授業ガイダンス。オルガンの歴史
- 2回 オルガンの歴史及び楽器についての説明
- 3回～ 6回 オルガンの基礎的な奏法の練習
- 7回 J. S. Bachのオルガン作品の研究
- 8回 オルガンの構造についての研究
- 9回 ヨーロッパ諸国に存在する、違う時代・種類のオルガンの研究
- 10回 J. S. Bach、及びJ. Pachelbel、D. Buxtehude etc. のオルガン作品の研究
- 11回 J. S. Bach以前のオルガン作品の研究
- 12回 J. S. Bach以後のオルガン作品の研究
- 13回～15回 学生各自が興味ある作品を取り上げその研究

科目名	音楽学演習Ⅰ・ⅡA [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	西崎 専一	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

大学院音楽学専攻生の修士論文作成を指導することを目標とする。

●履修上の条件及び履修の方法

Ⅰ～Ⅳの段階履修のため、以前のステップを履修した者が次の段階の履修に進むことができます。

●試験方法及び成績評価方法

履修者の論文作成作業の進行の程度と内容に従って評価が行われます。

●テキスト（必携）

●授業内容

科目の目標に従って、履修者の研究の進行の程度に従って、授業計画は組み立てられます。
Ⅰ・Ⅱにおいては、研究テーマ内容の詳細を確認し、どのような史料研究、フィールドワークが必要かを検討し、論文作成の手続きを具体化するための手続きについて検討します。資料調査、フィールドワークが必要な場合には、その実行も授業のカリキュラムの中を含むことがあります。

1. 学位論文としての修士論文の位置づけについて
2. これまで名音大に提出された修士論文について検討する (1)
3. これまで名音大に提出された修士論文について検討する (2)
4. 受講者の希望する修士論文研究のテーマについて
5. 上記のテーマの展開の方向について検討する
6. 上記のテーマに関わる先行研究の探索
7. 求められた先行研究の内容の紹介
8. 6と7の結果を受けて、修士論文研究のベースとすべき先行研究の確定
9. 先行研究論文の組み立てを参考にしながら自身の研究の骨格を展望する。(1)
10. 先行研究論文の組み立てを参考にしながら自身の研究の骨格を展望する。(2)
11. 論文提出期限を考えながら、特にフィールドワーク系の研究の実行プランを立てる。
12. フィールドワークを行うための条件整備に関する課題を明らかにする。
13. フィールドワーク実行する関係団体機関との調性を行う (1)
14. フィールドワーク実行する関係団体機関との調性を行う (2)
15. 修士論文作成に向けた初年度の成果を総括する。

科目名	音楽学研究Ⅰ・ⅡA[院]	形態	講義	開講期	春・秋
担当教員	西崎 専一	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

「音楽学演習Ⅰ～Ⅳ」と共に、大学院音楽学専攻生の修士論文作成を指導することを目標とする。

●履修上の条件及び履修の方法

Ⅰ～Ⅳの段階履修のため、以前のステップを履修した者が次の段階の履修に進むことができます。

●試験方法及び成績評価方法

担当教員から指示された課題の達成度合いによって評価が行われます。

●テキスト（必携）

●授業内容

「音楽学演習Ⅰ～Ⅱ」で行った履修者自身による修士論文作成の作業の経過に対する担当教員のアドバイスや資料研究、フィールドワーク研究のサポートを中心に授業内容が組み立てられ、授業計画は履修者の修士論文作成の経過に対応して個別に設定されます。

1. 学位論文としての修士論文の位置づけについて
2. これまで名音大に提出された修士論文について検討する（1）
3. これまで名音大に提出された修士論文について検討する（2）
4. 受講者の希望する修士論文研究のテーマについて
5. 上記のテーマの展開の方向について検討する
6. 上記のテーマに関わる先行研究の探索
7. 求められた先行研究の内容の紹介
8. 6と7の結果を受けて、修士論文研究のペースとすべき先行研究の確定
9. 先行研究論文の組み立てを参考にしながら自身の研究の骨格を展望する。（1）
10. 先行研究論文の組み立てを参考にしながら自身の研究の骨格を展望する。（2）
11. 論文提出期限を考えながら、特にフィールドワーク系の研究の実行プランを立てる。
12. フィールドワークを行うための条件整備に関する課題を明らかにする。
13. フィールドワーク実行する関係団体機関との調性を行う（1）
14. フィールドワーク実行する関係団体機関との調性を行う（2）
15. 修士論文作成に向けた初年度の成果を総括する。

科目名	音楽学特殊研究Ⅰ [院]	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	西崎 専一	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

今年は「現代における演奏問題」をテーマとして、研究を進めます。ヨーロッパの古典音楽を現代の日本で演奏したり鑑賞したりするところには特有の問題が生まれます。たとえば、日本各地に生まれているコンサート専用ホールは、ハイドンやモーツァルトの時代はもとより、現代のヨーロッパ人にとっても、ほとんど未体験に近い音響空間です。そこで生まれる響きは、音楽をどのように変質させるでしょうか。また、演奏スタイルにどんな影響をもたらすでしょうか。こうした問題を様々な角度から具体的に考えていきたいと思えます。

●履修上の条件及び履修の方法

大学院生は、演奏系の専攻であっても演奏に関する問題を知的に分析する能力が求められます。この研究がその役を担っていれば幸いです。従って、課題を自分の演奏体験と重ね合わせながら考えることが求められます。

●試験方法及び成績評価方法

評価は、平常の講義のなかでの問題の理解度や考察に取り組む姿勢を中心に、出席内容などを総合的に加味して行います。試験期間中の特別なテストは行いません。

●テキスト（必携）

●授業内容

演奏という行為を支える楽器や楽譜（作品）の様相と演奏者の関係の現実的な問題を検討することによって、「現代における演奏問題」をいくつか掘り起こしながら考察を加えていきます。受講者にはそれらの問題から自分に一番身近なテーマを選んでもらって、考察を進めます。

- 1-3 各受講者の取り組み、作品のはらむ、演奏解釈上の問題について
- 3-5 それらの問題についての現状についての紹介（プレゼンテーションと討論）
- 6-7 それらの問題の解明に関する現代的なコンテキストの分析とそれへの対処法について
- 8-9 音楽のジャンルごとに派生する解釈上の問題についての理解
- 10-12 日本人の感性がヨーロッパ音楽をとらえる時に派生する問題への対処の歴史的経過について
- 13-15 これまで考察した内容をベースとして、各受講生が抱えている問題について相互に検討を加えます。

科目名	音楽学特殊研究Ⅱ [院]	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	西崎 専一	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

今年「現代における演奏問題」をテーマとして、研究を進めます。ヨーロッパの古典音楽を現代の日本で演奏したり鑑賞したりするところには特有の問題が生まれます。たとえば、日本各地にうまれているコンサート専用ホールは、ハイドンやモーツァルトの時代はもとより、現代のヨーロッパ人にとっても、ほとんど未体験に近い音響空間です。そこで生まれる響きは、音楽をどのように変質させるでしょう。また、演奏スタイルにどんな影響をもたらすでしょうか。こうした問題を様々な角度から具代的に考えていきたいと思います。

●履修上の条件及び履修の方法

大学院生は、演奏系の専攻であっても演奏に関する問題を知的に分析する能力が求められます。この研究がその役を担っていれば幸いです。従って、課題を自分の演奏体験と重ね合わせながら考えることが求められます。

●試験方法及び成績評価方法

評価は、平常の講義のなかでの問題の理解度や考察に取り組む姿勢を中心に、出席内容などを総合的に加味して行います。試験期間中の特別なテストは行いません。

●テキスト（必携）

●授業内容

演奏という行為を支える楽器や楽譜（作品）の様相と演奏者の関係の現実的な問題を検討することによって、「現代における演奏問題」をいくつか掘り起こしながら考察を加えていきます。受講者にはそれらの問題から自分に一番身近なテーマを選んでもらって、考察を進めます。

- 1-3 各受講者の取り組み、作品のはらむ、演奏解釈上の問題について
- 3-5 それらの問題についての現状についての紹介（プレゼンテーションと討論）
- 6-7 それらの問題の解明に関する現代的なコンテキストの分析とそれへの対処法について
- 8-9 音楽のジャンルごとに派生する解釈上の問題についての理解
- 10-12 日本人の感性がヨーロッパ音楽をとらえる時に派生する問題への対処の歴史的経緯について
- 13-15 これまで考察した内容をベースとして、各受講生が抱えている問題について相互に検討を加えます。

科目名	音楽療法演習Ⅰ・ⅡB [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	廣川 恵理	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

- 1. 音楽療法のロールプレイを行い、実践に必要な技術を身につける。
- 2. 各自が計画した対象者についての知識を高める。
- 3. 音楽療法の治療計画、アセスメント、報告書の書き方を学ぶ。
- 4. 音楽療法のセッションにおける援助の仕方について学ぶ。

●履修上の条件及び履修の方法

履修学生は、各自が順番に主セラピスト、コセラピスト、伴奏者、対象者の役割を担い、ロールプレイを行う。また、ロールプレイを行った活動を基にして、実際に対象者に音楽療法の実践を行ってみる。主セラピストの学生は、一週間前までに活動計画を提出し、担当教員の添削指導を受ける。主セラピストの学生は、授業の前に、各役割の学生にセッションの内容について連絡、説明し、グループで準備、練習して演習に臨むこと。自分の実践したセッションについて、録画を見て、それについての批評を一学期に2回提出する。レポートは、自分の実践の終了後、一週間以内に提出する。履修学生は、テキストを読み、感想文を授業の最終日に提出する。

●試験方法及び成績評価方法

出席参加態度10%、演習の内容50%、提出物の内容40%

●テキスト（必携）

≪No.1.≫書籍名：ケアを受ける人の心を理解するために、著者名：渡辺俊之、出版社：中央法規

●授業内容

- (春・秋)
- 1. 授業の説明、順番を決める、援助の仕方について。
 - 2. 援助の仕方について。書類の書き方について。
 - 3. 援助の仕方について。書類の書き方について。
 - 4. 順番を決め、ロールプレイを行う。
 - 5. 順番を決め、ロールプレイを行う。
 - 6. 順番を決め、ロールプレイを行う。
 - 7. 順番を決め、ロールプレイを行う。
 - 8. 順番を決め、ロールプレイを行う。
 - 9. 順番を決め、ロールプレイを行う。
 - 10. 順番を決め、ロールプレイを行う。
 - 11. 順番を決め、ロールプレイを行う。
 - 12. 順番を決め、ロールプレイを行う。
 - 13. 順番を決め、ロールプレイを行う。
 - 14. 順番を決め、ロールプレイを行う。
 - 15. 順番を決め、ロールプレイを行う。感想文課題提出

*施設との日程調整により、後日、ロールプレイの日と現場での実践の日に分けて行う。

科目名	音楽療法研究 I ~ IV A [院]	形態	講義	開講期	春・秋
担当教員	栗林 文雄	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

音楽行動に関する研究論文を作成しながら、研究活動に必要な基礎知識と技術を学ぶ。
音楽療法における理論的側面を学びながら、それぞれをさらに深く調査し検証することができるよう、科学的な思考態度を身に付けるための科目である。

●履修上の条件及び履修の方法

学部において音楽療法関係科目（音楽心理学、音楽療法総論 I・II）を履修していない者はそれらの関係科目を並行して履修するものとする。

●試験方法及び成績評価方法

授業への参加、履修レポートの内容と学習態度50%、期末考査50%

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：音楽における実験的研究、著者名：C. マドセン & C. マドセン、出版社：一麦出版社、備考：2800円
《No.2.》書籍名：すぐわかる統計解析、著者名：石村貞夫、出版社：東京図書

●授業内容

受講者の音楽療法、音楽の行動科学領域での学習進度を考慮しながら調整しつつ進めるものとする。
詳細は未定である。

科目名	音楽療法研究 I・II B [院]	形態	講義	開講期	春・秋
担当教員	廣川 恵理	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

1. 音楽療法の研究方法について学ぶ。
2. 音楽療法におけるデータの取り方、記述法について学ぶ。
3. 音楽療法の研究に必要な統計学の知識を学ぶ。
4. 修士論文のテーマを決め、その計画、資料集め、執筆を行う。

●履修上の条件及び履修の方法

履修学生は、授業で学んだことを基にして、論文・学会発表の要旨についてのレポートを一学期に5つ提出する。また、学期末に統計学と研究法についての試験を受ける。

●試験方法及び成績評価方法

テスト40%、レポート50%、授業への参加態度10%、

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：初めての応用行動分析、著者名：P. A. アルバート、A. C. トルートマン（著）、出版社：二瓶社
《No.2.》書籍名：すぐわかる統計解析、著者名：石村貞夫、出版社：東京図書
《No.3.》書籍名：音楽療法入門 第2版 下、著者名：W. B. デイビス、K. E. グフェラー、M. H. タイト（著）、栗林文雄（訳）出版社：一麦出版社

●授業内容

1. 授業の説明、音楽療法の研究の種類
2. 音楽療法の研究の種類について、それぞれ該当論文を読みながら理解する。
3. 音楽療法の研究の種類について、それぞれ該当論文を読みながら理解する。
4. 音楽療法におけるデータの取り方、記述方法
5. 音楽療法におけるデータの取り方、記述方法
6. 統計学の基礎、修士論文の計画
7. 統計学の基礎、修士論文の計画
8. 統計学の基礎、修士論文の計画
9. 統計学の基礎、修士論文の計画
10. 統計学の基礎、修士論文の計画
11. 統計学の基礎、修士論文の計画
12. 統計学の基礎、修士論文の計画
13. 統計学の基礎、修士論文の計画
14. 統計学の基礎、修士論文の計画
15. テスト

科目名	音楽療法特講Ⅰ [院]	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	栗林 文雄	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

音楽のさまざまな機能を医療や福祉の分野に応用しながら展開される音楽療法の多様な側面を知り、それを支えている諸理論を学びながら知識を深めるクラスである。

●履修上の条件及び履修の方法

学部にて音楽療法関係科目（音楽療法総論Ⅰ・Ⅱ）を履修していない者は学部での音楽療法関係科目を並行して履修するものとする。

●試験方法及び成績評価方法

授業への参加と学習態度 50%、履修レポートの内容と期末考査 50%

●テキスト（必携）

●授業内容

受講者の音楽療法領域での学習進度を考慮しながら調整しつつ進めるものとする。詳細は未定である。

科目名	音楽療法特講Ⅱ [院]	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	栗林 文雄	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

春学期の活動を続けて行うものとする。

●履修上の条件及び履修の方法

春学期の活動を続けて行うものとする。

●試験方法及び成績評価方法

春学期の活動を続けて行うものとする。

●テキスト（必携）

●授業内容

春学期の活動を続けて行うものとする。

科目名	音楽療法論 [院]	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	栗林 文雄	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

音楽行動の背景に存在している人間行動の理論を学ぶ。行動主義的、力動心理的、人間主義的、トランスパーソナル心理学などの基本的知識を学ぶ。またホスピスにおける音楽療法についてのその基本的な知識を学ぶ。

●履修上の条件及び履修の方法

学部において音楽療法関係科目（音楽心理学、音楽療法総論Ⅰ・Ⅱ）を履修していない者はそれらの関係科目を並行して履修するものとする。

●試験方法及び成績評価方法

授業への参加、履修レポートの内容と学習態度が50%、期末考査50%

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：ホスピスのこころを語る、著者名：柏木哲夫＋栗林文雄、出版社：一麦出版社 創元社発売、備考：1890円

《No.2.》書籍名：音楽療法入門（上・下）、著者名：ディビス他（著）、栗林文雄（訳）、備考：上3,500円（税抜）、下4,000円（税抜）

●授業内容

受講者の音楽療法、音楽の行動科学領域での学習進度を考慮しながら、調整しつつ指導が行われる。

科目名	歌曲伴奏研究 I～IV [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	水谷 榮子	単位	1	年次	1,2

●授業科目の目標

ドイツ歌曲、日本歌曲を中心に詩の解釈、詩と歌の旋律との関わり、それを支えるピアノ伴奏の役割について追求。また、伴奏の実践的な奏法研究にも取り組みます。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

授業時の演奏により評価。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 ドイツ歌曲の概念と歴史、及び詩との密接な連関について。
- 3回 ピアノ伴奏による表現力の拡大（演奏）①
- 4回 ピアノ伴奏による表現力の拡大（演奏）②
- 5回 ピアノ伴奏による表現力の拡大（演奏）③
- 6回 ピアノ伴奏による表現力の拡大（演奏）④
- 7回 ピアノ伴奏による表現力の拡大（演奏）⑤
- 8回 ピアノ伴奏による表現力の拡大（演奏）⑥
- 9回 日本歌曲・詩の分析を解釈。
- 10回 ピアノ伴奏による表現力の拡大（演奏）①
- 11回 ピアノ伴奏による表現力の拡大（演奏）②
- 12回 ピアノ伴奏による表現力の拡大（演奏）③
- 13回 ピアノ伴奏による表現力の拡大（演奏）④
- 14回 ピアノ伴奏による表現力の拡大（演奏）⑤
- 15回 ピアノ伴奏による表現力の拡大（演奏）⑥

科目名	管楽合奏演習 I～IV [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	亀井 明良	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

専攻楽器のに入った小～中編成の合奏曲を多数経験する事により、他の楽器とのアンサンブル力や楽曲の研究を深める。

●履修上の条件及び履修の方法

種々の楽曲を取り上げ、作曲者、編成等研究をしっかりとしましよう。それぞれの曲に対する自らの感覚を持って発表して欲しい。

●試験方法及び成績評価方法

演奏会での演奏レベルで評価する。

●テキスト（必携）

●授業内容

- (春・秋)
- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
 - 2回 演奏会のための曲決め。
 - 3回～5回 楽曲分析
 - 6回～15回 実習

科目名	管楽曲分析演習 I ~ IV [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	亀井 明良	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

それぞれの学生が分析したい曲を持ち込み、発表をする。
(ディスカッション形式)
楽曲分析力を高める。

●履修上の条件及び履修の方法

クラシック音楽は、構成によって出来ています。分析が感性と結びつく所に注目して研究を深めて欲しい。

●試験方法及び成績評価方法

授業の発表内容により評価する。

●テキスト（必携）

●授業内容

(春・秋)
1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
2回～4回 A楽曲分析
5回～7回 B楽曲分析
8回～10回 C楽曲分析
11回～13回 D楽曲分析
14回～15回 楽曲分析の認識と意見交換

科目名	管楽特殊研究 I ~ IV [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	村田 四郎	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

管楽器特有の問題、「姿勢」と「呼吸」についての詳細な検証を行い、また個々の楽曲の部分に於いての「フレーズ」と「ブレス」の関係などを追い、楽曲に対する解釈のありかたを模索し、表現力及び演奏技術の向上につなげることを目標とする。

●履修上の条件及び履修の方法

春季・秋季通しての履修が望ましい。自専攻の楽器のみならず、他の楽器についての知識も積極的に学ぶこと。

●試験方法及び成績評価方法

出欠状況を重視し、レポート課題とあわせて評価する。

●テキスト（必携）

●その他

五線紙帳を必携すること。

●授業内容

『春学期』
第1回 授業の概要説明
第2回～第8回 個々の楽曲のフレーズとブレスの箇所、方法・種類についての検証
第9回～第14回 ブレスの種類とその訓練方法についての検証
第15回 春学期のまとめ

『秋学期』
第1回 授業の概要説明
第2回～第6回 個々が取り組む楽曲を題材にし、フレージングとブレスの関係、ブレスの多様性についての検証
第7回～第10回 姿勢（立つ姿勢）と息・音の変化についての検証
第11回～第14回 姿勢（座る姿勢）と息・音の変化についての検証
第15回 秋学期のまとめ

科目名	弦楽合奏演習 I ~IV [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	後藤 龍伸	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

弦楽合奏 I ~Ⅷと同時に行う。
アンサンブル面でのリーダーシップを重視。

●履修上の条件及び履修の方法

遅刻・欠席をしないことを心掛けること。

●試験方法及び成績評価方法

発表演奏をもって評価する。

●テキスト (必携)

●授業内容

- (春・秋)
- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
 - 2回 調弦方法や楽譜の読み方（書き込みの仕方）などの習得。
 - 3回 正しい音律とハーモニー（和音）の研究。
 - 4回 ポリフォニーの分析。
 - 5回 奏法（主に右手）の研究。ボーイングのつけ方など。
 - 6回 古典曲の譜読み。
 - 7回 前回譜読みした曲をほりさげる。
 - 8回 前回の課題の復習。
 - 9回 近代曲の譜読み。
 - 10回 前回譜読みした曲をほりさげる。
 - 11回 前回の課題の復習。
 - 12回 現代曲の譜読み。
 - 13回 前回譜読みした曲をほりさげる。
 - 14回 前回の課題の復習。
 - 15回 総合的に習得したことを復習する。

科目名	弦楽曲分析演習 I ~IV [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	後藤 龍伸	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

古今東西の弦楽器と関わりのある音楽を分析対象とし、楽曲の成立や特徴について理解し、時には演奏・実習を試みる。

●履修上の条件及び履修の方法

広幅い視野をもって分析にのぞみ、積極的に発言し、実習に挑戦すること。弦楽器以外の学生も歓迎します。

●試験方法及び成績評価方法

試験、テストなどは行わず、積極的に議論に参加し関連資料を予習・復習している場合はA評価、いちじるしく授業を妨害したりした場合にはC・D評価もあり得ます。それ以外はB評価とします。

●テキスト (必携)

●授業内容

- (春・秋)
- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
 - 2回 ルネサンス～バロック時代の弦楽器の扱いについて分析。ピリオド奏法なども検証。
 - 3回 バッハからモーツァルトの世代までの弦楽器の発展をさぐる。当時の教則本なども参考に。
 - 4回 ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲および弦楽四重奏曲の分析。同時代のチェロの進化にも注目。
 - 5回 ヴァイオリンの二大巨匠パガニーニとシュポーアの研究。同時代のヴィオラ・コントラバス・ギター・ハーブの進化にも注目。
 - 6回 弦楽器の近代化。ワーグナーのオペラ、楽劇を研究。
 - 7回 音楽史の中の革命的転換期。近代フランス音楽（ドビュッシーやラヴェル）の作品を分析する。
 - 8回 20世紀前半、第二次世界大戦終決までの現代音楽作品（バルトークやストラヴィンスキー）における弦楽器の発展を分析。
 - 9回 20世紀後半から今日にいたる現代音楽作品（邦人作品を含む）を分析する。
 - 10回 ヨーロッパの伝統音楽におけるヴァイオリン（フィドル）の役割について考える。類似楽器も含む。
 - 11回 トルコ・中近東・インドからアジア全体に渡って広く存在する弦楽器の音楽を聴く。
 - 12回 民族音楽が発展し、他のジャンルと融合して作られた音楽（特に弦楽器を主体としたもの）を聴く。
 - 13回 ジャズや現代において世界的に愛好されている音楽の中における弦楽器の役割について考える。
 - 14回 日本における（明治維新以降）西洋音楽の発展を分析し、弦楽器のしん透のしかたを検証する。
 - 15回 様々なジャンルの音楽を試奏する。

科目名	弦楽特殊研究 I～IV [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	後藤 龍伸	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

クラシック音楽における弦楽器の演奏史を研究する。
(時にはポピュラー音楽も研究の対象となりえる)

●履修上の条件及び履修の方法

講義や鑑賞を中心にすすめていきますが、時々楽器をもって実習することもありえるので、できるだけ欠席・遅刻のないようこころがけてください。

●試験方法及び成績評価方法

きわめて記憶力や学習意欲にすぐれた能力を発揮した学生には評価A、そうでない場合は評価Bとします。いちじるしく授業を妨害したりした場合にはC・D評価もありえます。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 F. クライスラー
- 3回 J. ハイフェッツ
- 4回 D. オイストラフ/L. コーガン
- 5回 パールマン/クレーメル
- 6回 シェリング/グリュミオー
- 7回 カザルス
- 8回 フルニエ/トリトゥリエ/ジャンドロン
- 9回 ロストロポーヴィチ/シャフラン
- 10回 カー/アザルヒン
- 11回 メニューイン/ミルシティン
- 12回 エネスコ/ティボー/フーベルマン
- 13回 フォイアマン/ピアティゴルスキー/ナヴァラ
- 14回 室内楽奏者たち
- 15回 ギトリス

科目名	コンピュータミュージック演習 I・II [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	小高 直樹	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

専門課程にふさわしい実践的な音楽制作能力をアカデミックな観点において習得し、作曲及び音楽制作能力を育成する。

●履修上の条件及び履修の方法

欠席する場合は必ず事前に各担当教員に、その旨を連絡する。

●試験方法及び成績評価方法

必要に応じてCDを指定する場合もある。

●テキスト（必携）

●授業内容

春学期

- 1 授業のガイダンス
- 2 基礎力（MIDIとAUDIOの技術）のチェックと復習1
- 3 基礎力のチェックと復習2
- 4～6 基礎音楽力のチェックと復習1
- 7～9 既成の楽曲の入り
- 10 編曲について
- 11～14 編曲実習
- 15 総括

秋学期

- 1 授業のガイダンス
- 2～5 映像に対する楽曲制作
- 6～9 サンプリングサウンドを用いた作品制作
- 10～14 テーマを設定した楽曲制作
- 15 総括

科目名	作曲演習 I・II [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	田頭 優子	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

最終年次に、学内でオーケストラ試演を行なう。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

平常点、試演（オーケストラ）作品提出

●テキスト（必携）

●授業内容

1.～15. 任意のピアノ曲（もしくは、自作品）を、オーケストラレーションする。

科目名	作品研究 I～IV [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	ウーヴェ・ハイルマン	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

発声法、人の声と響を繊細に聞き分ける能力。芸術歌曲、オペラ、及びオラトリオにおける様式感と表現方法を習得。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

授業への参加姿勢。平常点等総合的に評価する。

●テキスト（必携）

●授業内容

1回 授業ガイダンス
 2回 各々数曲のオペラ・オラトリオを選出し、順次研究解釈し歌唱する。
 ↓
 14回
 15回 まとめ

科目名	作曲特殊研究Ⅰ・Ⅱ[院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	田頭 優子	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

西洋音楽の歴史を知った上で、各時代で重要だと思われる作品を取り上げ、分析を含めそこに使われている書法、技法など諸問題など詳しく研究していく。

●履修上の条件及び履修の方法

学生の理解（熟知）度によってテキストを選び進めていく。

●試験方法及び成績評価方法

出席、平常点、レポート

●テキスト（必携）

●授業内容

作曲特殊研究ⅠⅡ
1.～15. 前衛音楽までの作品を取り上げる

作曲特殊研究ⅢⅣ
1.～15. 現代音楽（現在）までの作品を取り上げる

科目名	指揮法Ⅰ～Ⅳ[院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	高橋 俊之	単位	1	年次	1,2

●授業科目の目標

例題を実際に一人ずつ指揮をして会得する。「授業内容」に示したものは、初心者に対する一例で、学習経験、能力に応じて次々と難かしい例題に取り組みます。例題は115まであります。

●履修上の条件及び履修の方法

指揮法Ⅰを受講したことがある人は、その時使用したプリントをもってきて下さい。

●試験方法及び成績評価方法

受講当初よりどの程度上達したかを評価基準とします。

●テキスト（必携）

●授業内容

- | | | |
|-----|--------------------------|--|
| 1回 | ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。 | |
| 2回 | 導入（構え方、持ち方など） | |
| 3回 | プリント 例題1～10 | ↓
・各拍子のステータイング
・奏者とのコンタクトのとり方
・スタッカートとレガート
・サブディヴィジョン
・アフターザカウント
各フェルマータに対して |
| 4回 | プリント 例題11～18 | |
| 5回 | プリント 例題19～23 | |
| 6回 | プリント 例題24～29 | |
| 7回 | プリント 例題30～36 | |
| 8回 | プリント 例題37～42 | |
| 9回 | プリント 例題43～50 | |
| 10回 | プリント 例題51～54 | |
| 11回 | プリント 例題55～60 | |
| 12回 | プリント 例題61～65 | |
| 13回 | プリント 例題66～72 | |
| 14回 | 以後、ランダムに出題 | |
| 15回 | 以後、ランダムに出題 | |

科目名	室内楽 I ~ IV A [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	林 俊昭	単位	1	年次	1,2

●授業科目の目標

弦楽器だけの二～六重奏、またピアノを含めた二～七重奏の授業をします。クラシック音楽の形式、決まりごとや各作曲家のスタイル等をふまえて他の楽器の特性を理解し、また協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とします。室内楽の本質を見極め、作品の素晴らしさを体験することは各自のソロの演奏にも必ず役立つものと思います。

●履修上の条件及び履修の方法

一人が他の人と同じ楽器又は違う楽器を奏しながら1つの曲を進行して合奏するので、よく目、耳を使って練習して下さい。その延長線上にレッスンがあります。時間に遅れないように集合して下さい。

●試験方法及び成績評価方法

試験はしません。春学期、秋学期ともに演奏会を行います。採点は参加状況と普段の演奏、演奏会の3つの総合で決めます。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 }
- 3回 } 譜読み期間
- 4回 } 自分達のやる曲の勉強（練習だけでなく作品、
- 5回 } 作曲家の勉強もすること）
- 6回 }
- 7回 } 合奏の色々な問題点を研究
- 8回 }
- 9回 }
- 10回 }
- 11回 }
- 12回 } 演奏会に向けてつめていく
- 13回 }
- 14回 }
- 15回 } 最終演奏会は必ずやります

科目名	室内楽 I ~ IV B [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	亀井 明良	単位	1	年次	1,2

●授業科目の目標

ソナタ～8重奏程度の楽曲を多数集め研究・演奏する。アンサンブル力をつける。

●履修上の条件及び履修の方法

あらゆる室内楽曲に興味を持つ事。しっかり分析・練習をする事。

●試験方法及び成績評価方法

演奏のレベルにより評価する。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 曲目説明
- 3回～6回 楽曲分析
- 7回～15回 演習

科目名	重唱研究Ⅰ～Ⅳ [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	松下 雅人	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

ソロでは得がたい“聞き合う”習慣を身につける。また、きめ細やかなアンサンブルを目指し、更にそれを発展させ、ア・カペラに挑む。歌唱芸術の向上には、アンサンブルの能力は欠くべからず要素である。この授業では「対話する音楽」を追及する。

●履修上の条件及び履修の方法

- 1、無断欠席、遅刻、厳禁。
- 2、譜読みは各自、授業前に完了しておく事。
- 3、原語の逐語訳をし意味を把握しておく。

●試験方法及び成績評価方法

出席状況50%
授業に対する意欲50%

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 曲目選択、パート分け
- 2回 作品解釈
- ↓
- 3回
- 4回 対訳について逐語訳完成
- 5回 音取り（ピアノ伴奏）
- ↓
- 7回
- 8回 個別パート練習（Sop. Alt）
- 9回 個別パート練習（Ten. Bas）
- 10回 暗譜練習
- ↓
- 13回
- 14回 暗譜完成
- 15回 視聴会

科目名	声楽特殊研究B [院]	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	山本 みよ子	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

橋本国彦歌曲の真髄と言われている『徴』『斑猫』『舞』を取り上げる。当時（第2次世界大戦前）パリに3度も渡った深尾須磨子の情熱的で風刺性を持った現代詩に、近代フランス音楽の影響を受けた橋本国彦が作曲したこの3作品を中心に研究し、日本的施法と西洋和声の融合を探るべく作曲された『富士山見たら』『お六娘』『田植歌』にも触れてみる。

●履修上の条件及び履修の方法

全体の進行に迷惑をかけない、甘えのない譜読み、下調べをして授業に臨むこと。

●試験方法及び成績評価方法

出席状況と授業毎の学習状況（平常点）・試演会による。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 授業ガイダンス、選曲
- 2回
- ↓ 音楽稽古
- 7回
- 8回 試演会（Aプログラム）
- 9回
- ↓ 音楽稽古
- 14回
- 15回 試演会（Bプログラム）

科目名	声楽特殊研究C [院]	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	新実 真琴	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

フランス語アルファベットから始め、綴り字と発音、発音記号をマスターする。時間の許す限りフランス音楽に親しむ。

●履修上の条件及び履修の方法

予習、復習を必ずしてくること。フランス語の辞書持参が望ましい。

●試験方法及び成績評価方法

- ・綴りと発音、及び発音記号との関係を理解し修得できたか
- ・音節とリズム、メロディの関係への理解度、音楽の感受性、表現力

●テキスト（必携）

●授業内容

1回 以下の曲から選び練習する。発音記号、訳詩も準備する。
↓
15回

- ・ Tosti
Pour un baiser
Chanson de l'Adieu
Si tu voulais
- ・ Mozart
Oiseaux, si tous les ans
Dans un bois solitaire

- ・ Fauré
Rêve d'Amour
Aurore
Au bord de l'eau
Ich-bas
Automue
Green
Poème d'un Jour (Reucontre
Toujours
Adieu
- Le Secret
Clair de lune
Lydia
Daus les ruine d'une abbaye
Mai
Après un Rêve
- ・ Gounod
Où voulez-vous aller?
ô Ma belle Rebelle
Sérénade
Ca que je euis sane toi
Absence
Vien! Les gazons sont verts!
L'Absent

科目名	声楽特殊研究D [院]	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	田中 省三	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

●履修上の条件及び履修の方法

- ①H. Wolf: Verborgeneheit (隠棲)
 - ② " : Der Gärtner (庭師)
 - ③R. Strauss: Allerseelen (万霊節)
 - ④ " : Nichts (なにも!)
- 上記の曲目を通じて、解釈や歌唱法を研究していく。

●試験方法及び成績評価方法

授業に対する姿勢と出席数を基にする。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 作曲家の時代背景について研究する。
↓
4回
5回 ドイツ語の発音、テキストの解釈、音楽練習を重ねていく。
↓
11回
12回 演奏体験（暗譜が望ましい）を通じて、独唱力を高める。
↓
15回

科目名	声楽特殊研究E [院]	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	長野 真理子	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

日本歌曲作品の中から課題を選び、毎週各々が研究成果を発表し、作曲者、作詞者、またその詩に対する洞察も深めながらそれらを基に表現力も養っていけるようにしたい。

●履修上の条件及び履修の方法

図書館を活用して、自ら考え、研究し、積極的な姿勢で臨んで下さい。

●試験方法及び成績評価方法

日頃の研究姿勢を参考にし、最終週には、試演会という形で発表する予定です。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。詩の朗読
 2回 各個人の日本歌曲の習熟度に応じ、曲を選出し、できれば
 ↓ まとまった歌曲集として、15回の時に発表できるよう、順次
 研究解釈し、詩を朗読し、歌唱する。
 14回
 15回 まとめ

科目名	声楽特殊研究F [院]	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	大西 由則	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

イタリアのフィレンツェでルネサンス後期、ギリシャ悲劇の復興運動中に生まれ、フランス、ドイツ、イギリスへと広がっていったオペラ。そのイタリア・オペラの中からは、オペラ作曲家の大変重要な歌曲を中心に研究する。

●履修上の条件及び履修の方法

演奏する曲をよく練習することが望ましい。

●試験方法及び成績評価方法

授業への参加姿勢。
 平常点等総合的に評価する。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 歴史的録音や演習を通し、各学生の技量にあうイタリア・オペラと歌曲も含め、大変重要な中から作品研究する。
 1回 ガイダンス
 2回 バロック時代のオペラ①
 3回 " ②
 4回 " ③
 5回 ベルリーニの作品①
 6回 " ②
 7回 ロッシーニの作品①
 8回 " ②
 9回 ドニゼッティの作品①
 10回 " ②
 11回 近代のオペラと歌曲①
 12回 " ②
 13回 " ③
 14回 復習
 15回 試演会

科目名	打楽合奏演習 I～IV [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	山口 恭範	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

各種打楽器を用いた打楽合奏曲の譜を読み、合奏の記譜や楽器の扱い方に慣れるよう読譜（初見）を主としての授業進行を行う。
大学特有の限られた楽器に限りなく近い作品を調査し授業の主体とする。
受講者の作曲も大いに歓迎し新しい感覚の作品誕生を、期待する。

●履修上の条件及び履修の方法

1人が1つの打楽器を受け持ちながら集合して行う合奏であるため、欠席によるパートの欠落をなくすべく、各奏者は約束された時間への集合を大切にすること。

●試験方法及び成績評価方法

アンサンブルは数人で一つの物を造り上げる性質ゆえ、個人の成績評価は演奏面では採点せず、準備の仕方、他人との協調、細部への気配りといった共同作業に必要な精神を評価の基とする。

●テキスト（必携）

●授業内容

学年度末の3月頃、打楽器アンサンブルコンサートが開催出来るためのレパトリーを旨として、前期、後期との区別はつけず、各種各国の打楽器アンサンブル曲をとり上げる。

『春学期』

1回～5回 打楽合奏曲の譜読み
6回～10回 打楽合奏曲の譜読みに加え初見の曲も練習する
11回～15回 大学保有の楽器に適した楽曲の練習をする

『秋学期』

1回～5回 打楽専攻生の作品も取り上げ創造力も養う
6回～14回 年度末の打楽アンサンブルコンサートに向けて総仕上げにとりかかる。1年間の成果があげられるよう全員で取り組む。
15回 打楽アンサンブルコンサート開催

科目名	打楽曲分析演習 I～IV [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	亀井 明良	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

それぞれの学生が分析したい曲を持ち込み発表する
(ディスカッション形式)
楽曲分析力を高める

●履修上の条件及び履修の方法

クラシック音楽は構成によって出来ています
分析が感性と結びつく所に注目して研究を深めて欲しい

●試験方法及び成績評価方法

授業の発表内容により評価する

●テキスト（必携）

●授業内容

1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
2回 A楽曲分析
↓
4回
5回 B楽曲分析
↓
7回
8回 C楽曲分析
↓
10回
11回 D楽曲分析
↓
13回
14回 楽曲分析の認識と意見交換
↓
15回

科目名	チェンバロ奏法研究 I～IV [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	中野 振一郎	単位	1	年次	1,2

●授業科目の目標

「チェンバロ奏法」を中心に（テキストの楽曲を弾きながら）17～18世紀の音楽語法を研究する。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：チェンバロをひこう、著者名：中野振一郎
出版社：音楽之友社

●授業内容

- 第1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
第2回～4回 チェンバロ奏法（マナー、アーティキュレーション、レガート）を学ぶ。
第5回～7回 古典音楽（17～18世紀）の習慣&知識を知る。装飾（ヴェルサイユの楽曲を中心に）や指づかい（エリザベル朝）
第8回～11回 通奏低音実践
数字付き低音の正しい解釈と実践
第12回～14回 座談会「日本における西洋音楽（古楽）を語る」

科目名	電子オルガン演習 I・II [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	水野 義子	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

エレクトーン演奏グレード5～3級を取得する。

●履修上の条件及び履修の方法

●試験方法及び成績評価方法

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：エレクトーン即興演奏法 基礎編
著者名：増沢徹、岩間稔
出版社：（財）ヤマハ音楽振興会

●授業内容

それぞれのレベルに対応し、1～2グレードアップを目指す。特にグレードの鬼門といわれる即興演奏、初見演奏を強化する。

科目名	電子オルガン特殊研究Ⅰ・Ⅱ [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	稲垣 智保	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

自分の個性を最大限表現できるようになることを目標として電子オルガンと向き合い、様々な手法の実践を通して独自の表現方法を探る。

●履修上の条件及び履修の方法

準備不足、練習不足によって自ら前進を妨げることの無いようにしましょう。

失敗も歓迎します。無駄になるものは何もないので、時間と努力を惜しまずに費やす気持ちで履修してください。積極的に授業を活用し、問題提起や質問をしてください。

●試験方法及び成績評価方法

授業内での努力、積極性、理解度により評価する。
出席日数が2/3に満たない場合は、出席不足による受験資格喪失とみなし、試験を受験することはできません。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 問題提起、目標設定
- 2～3回 電子オルガンの演奏機能の研究
- 4～5回 レジストレーション研究
- 6～7回 編曲
- 8～9回 演奏表現研究
- 10～11回 アンサンブル
- 12～15回 即興演奏

科目名	ピアノ合奏演習Ⅰ・Ⅲ [院]	形態	演習	開講期	春
担当教員	金山 正一	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

- ・冬の学内公開演奏に向けた訓練
- ・Duoの楽しみを知る

●履修上の条件及び履修の方法

2人の組をあらかじめ決定しておく
意欲のある者

●試験方法及び成績評価方法

出席50%、公開演奏50%

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
2～3回 自分の組の演奏曲を決める。様々な作品を研究してみる。
4～15回 決定した曲目への練習、研究。解説文を書くことでの曲の景観を見る。

科目名	ピアノ合奏演習Ⅱ・Ⅳ [院]	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	金山 正一	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

- ・冬の学内公開演奏に向けた訓練
- ・Duoの楽しみを知る

●履修上の条件及び履修の方法

意欲のある者

●試験方法及び成績評価方法

出席50%、公開演奏50%

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
2～14回 決定した曲目への練習、研究。解説文を書くことでの曲の景観を見る。
15回 2台8手などで楽しんでみましょう。

科目名	ピアノ曲作品研究B I・Ⅲ [院]	形態	演習	開講期	春
担当教員	弘中 孝	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

いつまでも先生を必要とせず独立して練習、解釈が出来るようにすること。

●履修上の条件及び履修の方法

特になし

●試験方法及び成績評価方法

平常点60%、まとめの演奏40%

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 バロック音楽（特にBach）ポリフォニーを理解する。
- 3回 古典派と言われる作曲家達の時代背景を説明。
- 4回 ロマン派の説明ー音楽上のルネッサンス。
- 5回 近現代の説明。
- 6～7回 楽譜を読む際の注意。楽譜に書いてないこと又は書けない事。
- 8～10回 練習の重要性。反復と集中。（一度間違えると間違える練習をしている結果になるということを理解）
- 11～15回 実際にピアノで弾いて理解。

科目名	ピアノ曲作品研究B II・Ⅳ [院]	形態	演習	開講期	秋
担当教員	弘中 孝	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

いつまでも先生を必要とせず独立して練習、解釈が出来るようにすること。

●履修上の条件及び履修の方法

特になし

●試験方法及び成績評価方法

平常点60%、まとめの演奏40%

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 バロック音楽（特にBach）ポリフォニーを理解する。
- 3回 古典派と言われる時代の社会背景を説明。
- 4回 ロマン派ー音楽上のルネッサンスーを説明。
- 5回 近現代の作曲家の説明。
- 6～7回 楽譜を読む際の注意。
- 8～9回 練習の重要性。集中を欠く練習は間違いの基。
- 10～11回 実際にピアノで弾いて理解。
- 12～14回 2年生は人前で弾くと何が起こるかを経験。
- 15回

科目名	ピアノ特殊研究A [院]	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	永野 美佐子	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

R. シューマンのピアノ作品について様々な角度から研究、考察し、それぞれの作品についての理解を深めると同時に、その演奏法について学ぶ。

- ・ R. シューマンの特性を理解し、それが十分に表現された演奏ができるようにしたい。
- ・ 作曲家の精神的意図を完全に把握し、内容の深い、説得力のある演奏ができるようにしたい。

●履修上の条件及び履修の方法

- ・ R. シューマンの作品に興味を持ち、それを究めようとする積極性と意欲を持った学生。
- ・ 春期・秋期続けて受講することが望ましい。

●試験方法及び成績評価方法

出席と日頃の授業への取り組み方の総合的判断とする。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 第1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
 第2回～5回 舞曲的作品の研究
 第6回～8回 抒情的小品、及び性格的小品の研究 I

科目名	ピアノ特殊研究B [院]	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	永野 美佐子	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

R. シューマンのピアノ作品について様々な角度から研究、考察し、それぞれの作品についての理解を深めると同時に、その演奏法について学ぶ。

- ・ R. シューマンの特性を理解し、それが十分に表現された演奏ができるようにしたい。
- ・ 作曲家の精神的意図を完全に把握し、内容の深い、説得力のある演奏ができるようにしたい。

●履修上の条件及び履修の方法

- ・ R. シューマンの作品に興味を持ち、それを究めようとする積極性と意欲を持った学生。
- ・ 春期・秋期続けて受講することが望ましい。

●試験方法及び成績評価方法

出席、平常点、試演会に於ける演奏の総合的判断とする。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 第1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
 第2回～4回 抒情的小品、及び性格的小品の研究 II。
 第5回～8回 ソナタ形式に基づいた作品の研究。
 9回 試演会で研究成果の発表と今後の課題について検討する。

科目名	ピアノ特殊研究C [院]	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	佐藤 恵子	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

楽譜から作曲家の意図が理解できるよう、読譜の重要性の理解。ショパン独特の美しいピアノの音色を求めて、練習曲を中心に作品分析と演奏。

●履修上の条件及び履修の方法

演奏曲目について調べ、分析し、発表、演奏する。ショパンの作品、人生について調べ発表する。

●試験方法及び成績評価方法

練習曲を一曲演奏 (40%)
 作品分析と演奏 (30%)
 受講姿勢と出席率 (30%)

●テキスト (必携)

●授業内容

1. ガイダンス：演奏曲目とショパンについて各自のテーマを決定
 <テーマの例>・・ショパンの病気、ショパンの家族、ショパンの恋愛事情、ショパンの交友関係、ショパンの先生、ワルツ、バラード、スケルツォ、マズルカ、ポロネーズ、ノクターン、アンプロムプチュ、ソナタ、協奏曲 etc
2. ~11. 練習曲 op. 10、op. 25
12. 自由曲 パフォーマンスについて
13. ~15. 自由曲 (ショパンの作品)
16. 実技試験 (練習曲1曲) まとめ

科目名	ピアノ特殊研究D [院]	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	竹中 勇記彦	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

J. S. バッハやヘンデルと同年の1685年にイタリアのナポリに生まれた、ドメニコ・スカルラッティのソナタを取り上げ、彼の創造性について考えていきます。彼が自らの責任で出した唯一の出版物である「クラヴィチェンバロのための練習曲集」の序言に「この曲集の中に深刻な楽想を期待するよりも、むしろチェンバロ演奏の練習に役立たせるための邪心のない技術的な工夫をして下さい。私は皆さんを楽しませることができると信じています」とあることから、スカルラッティは、そこに音楽上の才気にあふれた喜びを感じ取ることを望んでいます。

●履修上の条件及び履修の方法

全曲目を用意するのは大変なので、演奏効果のあるものを選んで編集された中山靖子 (編)、スカルラッティソナタ集1~3音楽の友社刊をお勧めします。演奏がゴールではありません。従ってこの授業の為に、練習に多大の時間を費やすことはありませんが、読譜には時間を要します。

●試験方法及び成績評価方法

出席状況、授業への参加姿勢、学期末の実技試験を加えて総合的に評価します。

●テキスト (必携)

●授業内容

作品を構成している音程、和音、リズム、音型、音域等いろいろな要素を検討し、その魅力をさぐっていきます。出版順に作品を追っていくのが彼の創作の流れを知るのにいいと判断し、カークパトリック番号に沿いながら進めていきます。本来、チェンバロのために書かれたものであるため、チェンバロと現代のピアノで奏される場合の演奏比較をCDを使って行うこともあります。譜面から音楽を起こしていくことに主眼を置くので、「演奏が結論」という授業にはなりません。勿論、作品を奏することによる快感のルーツをさぐることはしますが、

- 第1回 授業ガイダンス (受講人数を考慮します)
- 第2回 1回の授業で3曲程度 (基本的にはカークパトリック番号にのっとり)
- ↓
- 第15回

科目名	邦楽合奏演習 I～IV[院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	芦垣 美穂	単位	2	年次	院1,2

●授業科目の目標

院生として1パート1人の責任を持って個々の音楽性を発揮していきける様にしていく。

●履修上の条件及び履修の方法

院生として、又学部アンサンブルのソリストとして学部生の先頭を切れる様に成長させる。

●試験方法及び成績評価方法

演奏による採点（100%）

●テキスト（必携）

- 〈No.1.〉 書籍名：茉莉花、著者名：牧野由多可
出版社：大日本家庭音楽会
- 〈No.2.〉 書籍名：日本民族による組曲、著者名：牧野由多可
出版社：大日本家庭音楽会
- 〈No.3.〉 書籍名：北国雪賦、著者名：長沢勝俊
出版社：大日本家庭音楽会

●授業内容

『春』

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
2回 院1・2年生による1パート1人のアンサンブル授業
3回 院1・2年生による1パート1人のアンサンブル授業
4回 院1・2年生によるパート変更により他のパートへの理解を生む
5回 院1・2年生によるパート変更により他のパートへの理解を生む
6回 ↓ 別の曲にてくり返し
9回 ↓
10回 別の曲にてくり返し

『秋』

- 11回 ↓ 別の曲にてくり返し
12回 ↓
13回 ↓ 邦楽定期演奏会に向けての練習
15回 ↓
16回 ↓ 邦楽定期演奏会に向けての練習
20回 ↓

科目名	邦楽作品研究 I～IV[院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	芦垣 美穂	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

院生として取り組んだ個人曲に対して各々理解を深めさせる

●履修上の条件及び履修の方法

個人曲に対する作品研究

●試験方法及び成績評価方法

演奏による採点（100%）

●テキスト（必携）

●授業内容

『春』

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
2回 ↓ 取り上げた曲の内容、歌詞解説 曲の背景等の検証。
6回 ↓
7回 ↓
10回 ↓

『秋』

- 11回 ↓
12回 ↓
15回 ↓

科目名	邦楽特殊研究 I～IV [院]	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	芦垣 美穂	単位	2	年次	1,2

●授業科目の目標

地唄音楽の最も重要な演奏形態に三絃同士の本手、替手合奏があります。院生としてふさわしい難曲をこなしていきます。

●履修上の条件及び履修の方法

お互いに理解し合わないと音楽上成立しない合奏形態ですから、お互いのパート変更をしながらの理解を深めます。

●試験方法及び成績評価方法

演奏による採点 (100%)

●テキスト (必携)

- 《No.1.》書籍名：古ざらし、著者名：深草検校
出版社：なし
- 《No.2.》書籍名：越後獅子、著者名：峰崎検校
出版社：大日本家庭音楽会
- 《No.3.》書籍名：吾妻獅子、著者名：峰崎検校
出版社：大日本家庭音楽会

●授業内容

- 『春』
1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
2回
↓
6回 三絃の本手、替手を主として練習する
7回 パート変更しながら完成度を高める
↓
10回 くり返し
- 『秋』
11回 くり返し
12回
↓
15回 くり返し
16回
↓
20回 定期演奏会に向けての練習